

みなさん、こんにちは。県立生涯学習推進センターメルマガ担当です。

10月1日から「赤い羽根共同募金」運動が始まります。

みなさんも学校や街頭で協力をした経験があるのではないのでしょうか。

私も小学生の頃から、学校での募金活動に協力してきました。赤い羽根欲しさに、お金を小分けにして何回も協力したものです。手持ちがなくなると、家族に協力してもらったり、手伝いをし、駄賃をもらったり、空き瓶を売ったりしてお金を集めました。

さて、我が家の子どもたちも、毎年学校を通して赤い羽根共同募金活動に協力しています。

数年前は、各家庭に簡易的な募金箱が渡され、一定期間集めた後に回収する取組がありました。

子どもたちからは、毎日のように協力を求められました。私と妻は、これを機に子どもたちにお手伝いを習慣化させようと、家のお手伝いをしたら子どもたちに駄賃をあげ、それを寄付金にすることとしました。お手伝い内容と金額を子どもたち自身が考え、私たちにミニプレゼンしながら交渉し、お互いが納得したことを実行する方法です。

妻：「玄関掃除だけで、この額は高いのではないのでしょうか」

子：「なら玄関の外の方まで掃除するならどうでしょう」

私：「せっかくなら、家の前の道路まで掃除したらどうでしょうか」

子：「それなら、これくらいもらわないとやらない」

私：「・・・」

私：「ま、いいでしょう。玄関の外までで、この金額にしましょう」

などなど。

子どもたちは、いろいろな手伝いを考え提案してきました。私たちは可能な限り子どもたちの提案を受け入れ、手伝いをするたびに駄賃を渡しました。子どもたちは、駄賃をすぐに募金箱に入れ、そのたびに箱を揺らしていました。募金箱がどんどん重くなっていくことがうれしかったようです。提出する日は、結構重たくなった募金箱を大事そうに学校に持っていきました。

結果、募金取組は大成功でした。しかし残念ながらお手伝いの方は定着しませんでした。

「赤い羽根」はアメリカの先住民族の間で、勇気のある行いや良いことをした人が付けていたと言われており、「勇気と良い行いのシンボル」という意味があるそうです。

子どもたちには、赤い羽根の精神にのっとり、良いことをきちんと判断して実行できる人になってほしいです。

☆子育てに関する悩みを一緒に考えます☆

子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/

kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行・文責】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】<https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/>

【Facebook】<https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】<https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★